

文教大学情報学部 社会調査 研究報告

生活環境と生活意識の調査報告

2011年 12月

情報学部 広報学科 3 年

小室 奈緒

目次

第1章 調査研究の概要	
1.1 調査研究の目的と背景	2
1.2 調査に関する状況	2
1.3 調査研究の方法	4
1.4 成果の概要	6
第2章 調査研究の成果	7
2.1 調査回答者の概要	7
2.2 生活満足度	8
2.3 生活満足度と金銭面との関係	9
2.4 生活満足度と趣味との関係	10
2.5 生活満足度と大学との関係	11
2.6 生活満足度と性格との関係	14
2.7 生活満足度と友人・家族との関係	16
2.8 生活満足度とその他の関係	19
第3章 調査研究の成果	21
3.1 現在の生活環境	21
3.2 一人暮らしの場合の生活満足度の要因	21
3.3 実家暮らしの場合の生活満足度の要因	22
3.4 生活環境による生活満足度の要因の比較	25
第4章 まとめと今後の課題	27
3.1 研究のまとめ	27
3.2 反省点と今後の課題	29
参考文献	29
単純集計結果	30

第1章 調査研究の概要

1.1 調査研究の目的と背景

大学生になって、一人暮らしの人が一気に増える。一人暮らしがしたくて始める人もいれば、したくないけど始めなくてはならない人もいる。また、一人暮らしがしたいけれど、実家から通っている人も居る。アパートを借りる人も居れば、寮に住む人も居るし、ひとりで住む人も居れば、兄弟と住む人も居る。一人暮らしにはさまざまな形がある。

一人暮らしに憧れる人は多いが、最近では一人暮らしの人を狙った犯罪が増えている。また、東日本大震災があったことで、自然災害の恐怖を体験したとともに、その恐怖心から、一人暮らしへの不安が増幅したはずだ。

少子高齢化が問題視されている日本で、核家族の増加や、老老介護の問題が深刻化している。今後の日本に大いに影響をもたらす大学生の、意識はかなり重要である。一人暮らしが好きだからと、ますます核家族が増えれば、少子化や老老介護は、さらに深刻になるだろう。住み方の違いによって、大学生の普段の生活の中でどのような意識を持っているのか。そして、その意識を育てる要因や関連するものはどのようなものなのか調査していく。

1.2 調査に関する状況

(1) 単独世帯の増加

平成17年度の国勢調査によると、単独世帯の割合が毎年増加していることが分かった。1975年には、単独世帯の数は6561世帯で全体の19.5割だったが、2005年までの30年の間にその数及び割合が増加し、2005年には単独世帯の数は14457世帯に上り、全世帯の29.5割を占めていた。日本の人口は、2004年末に、戦後初めて減少に転じ、今後もしばらく減っていくことが予想されていた。しかし、単独世帯が増加しているため、総世帯数は増加するだろう。

また、単独世帯の人口比については、性別・年齢別に傾向に大きな違いがあることがわかった。まず、男性の単独世帯の人口比は、20代がもっとも多く、30代以降にやや低下した後、70歳以降にまた上昇していく傾向となっている。また、35歳以降のすべての年代にわたって単独世帯の人口比が、過去10年の間、大きく増大しており、特定の年代に見られる傾向ではないこともわかる。一方、女性の単独世帯の人口比は、20代と70代が多い傾向になっている。30代までは男性の場合と同じように増加傾向にあるのに対し、40代・50代・60代ではこの1

0年でほとんど変化していないことも分かった。すなわち、40代前半より若い年代で単独世帯が増加しているということが言える。

(2) 結婚率

若年層における単独世帯の増加には、晩婚化と経済的な自立が背景にある。男女とも未婚率は近年上昇が続いているが、女性は特に1980年(昭和55年)代以降に急増した。これは1986年(昭和61年)の男女雇用均等法が施行された時期と重なる。つまり、雇用待遇が改善され、働き続ける環境が整い、一人住まいを選択できるようになったとみることができる。また、出生率が急減する時期とも重なっており、働くことで、結果的に子どもを生き育てることが後回しになったとみられる。

(3) 生活意識

全国宅地建物取引業協会連合会の「一人暮らしに関する意識調査(2011年3月)によると、一人暮らしをすることに賛成の意見には、「自立心が高まる」、「社会性を身につける」、「自由になれる」という意見があり、反対の意見には、「経済的に無理」、「未熟」、「必要がない」という意見があった。このことから、一人暮らしをすると、自立心が高まるということが、期待されているのが分かる。

また、同調査によると、一人暮らしをしてみたい都道府県では、全体、男性、女性ともTOP3は同じで、「東京都」、「神奈川県」、「沖縄県」という結果であった。このことから、都会での一人暮らしへの憧れと、沖縄のようなリゾート地に住みたいという考えがあることが分かる。この傾向は学生にも言えるのだろうか。学生が一人暮らしを始める理由で一番多いと考えられるのは、大学進学で実家から遠い学校に進学するからだが、進学先を決める上で、一人暮らしをしたい都道府県や環境はどれくらい影響をしているのだろうか。

食事に関しては、朝食では「自宅(自炊)派」が80.3%と圧倒的に多く、昼食では「中食『お弁当やコンビニ』派」が39.1%で多く、夕食も「自宅(自炊)派」が84.7%と圧倒的に多いという傾向が見られた。近年の不況もあり、外食や中食を控える傾向が強くなってきている。

また、株式会社野村総合研究所の「若者の生活意識に関するアンケート調査」(2008年9月)によると、現在の生活の満足度は、満足していない人が4割を上回っていることがわかる。性別での差異が大きいことが分かった。

(4) 一人暮らしのイメージ

1人暮らしをしたら、親からの干渉から逃れられ、自由な時間が増えるというイメージを持っている人が多い。もちろん、これらはとても魅力的だが、実際に一人暮らしを始めて、イメージとの矛盾を感じた人は多いはずだ。例えば、家事を自分でしなくてはいけない、家に誰もいないから暇、さみしい、光熱費や家賃がかかるなど、現実は大変なことが多い。

(5) 大学進学率

平成22年度学校基本調査によると、学生数は、288万7千人(男子170万2千人、女子118万6千人)で、前年度より4万2千人増加している。高校卒業後の進路として、大学等へ進学する人の数は、4千5百人(男子4千人、女子5百人)で、前年とほぼ同数となっている。進学率は、全体の44.5%(男子47.1%、女子30.6%)で、前年の43.0%(男子45.3%、女子31.3%)よりも、1.5%上昇している。また、就職者の総数(「大学等への進学者のうち就職している者」を加えた全就職者数。以下同じ。)は、5千2百人(男子4千2百人、女子1千人)で、全体の51.5%を占めている。前年の5千6百人(全体の53.6%)より4百人減少している。就職率は、51.5%(男子49.2%、女子63.9%)であった。

このように、就職者のほうがやや多い傾向にあるが、大学進学は高い水準を保っている。誰でも進学が出来るので、大学に進学しておいた方が就職してから有利とか、なんとなく大学に来ている人もいるだろう。一人暮らしをしている人は、わざわざ実家から通えない距離の大学を選んでいる人が多いと思う。わざわざ実家から遠い大学を選んだ理由には、一人暮らしがしたいからなのか、それとも大学が魅力的だったのか、そういったことも合わせて調査したい。

以上のようなことをもとに、今回の調査をし、学生の意識にはどういった傾向があるのかを分析する。今後ますます進行していく少子化や高齢化、環境問題と向き合うためには、学生の意識を知っておくことが、重要になってくるだろう。

1.3 調査研究の方法

(1) 進捗経緯

~8月：研究テーマ検討、結果

~9月：調査票作成、完成

~11月：調査票配布、回収、集計、単純集計結果を報告

～12月：研究結果提出

(2) 調査の概要

a. 調査の意図・仮説

- ・一人暮らしの方が、住居への満足度が高い。
- ・実家暮らしの方が、一人暮らしへの憧れが強い。
- ・一人暮らしの方が、自由時間の満足度が高い。
- ・一人暮らしの方が、自己管理がしっかり出来る。
- ・一人暮らしの方が、意識の変化が大きい。
- ・実家暮らしの方が、遅刻が少ない。
- ・一人暮らしの方が、学習意識が高い。
- ・一人暮らしの方が節約志向である。
- ・生活満足度には、友人関係が関係している。
- ・一人暮らしと実家暮らしの生活満足度の要因は同じではない。

b. 調査対象と方法

- ・調査対象：文教大学生
- ・調査方法：紙面によるアンケートを授業内に配布

c. 主な調査項目

「現在の住まいの状況」

- ・一人暮らしか実家暮らしか
- ・なぜその住み方をしているのか
- ・一人暮らしの想像と現実
- ・現在の住まいへの満足度

「暮らし方に関するメリットとデメリット」

- ・自由な時間がある
- ・家族に拘束されない
- ・趣味の満足度
- ・生活において負担になる項目
- ・毎月の支出と収入

「意識の変化について」

- ・変化があったと感じる項目（金銭面、学習意識など）
- ・交友関係

「学習意識について」

- ・文教大学への入学意欲
- ・授業への出席態度
- ・単位取得状況

「金銭感覚につて」

- ・アルバイトの有無
- ・毎月の収入と支出
- ・いくらからが高いと思うか（食事、服、雑貨など）

d . 依頼数と回答数

- ・配布数：155 枚（新聞論：103 枚 プロモーションデザイン論：52枚）
- ・回収数：153 枚（新聞論：102 枚 プロモーションデザイン論：51 枚）
- ・有効回収数：152 枚（新聞論：102 枚 プロモーションデザイン論：50 枚）

1 . 4 成果の概要

次の方法によって、生活満足度とそれを左右する要因の関係を検定した。

まず、学生の生活満足度を4段階で調査し、その調査データから回答者を満足層と不満足層の2グループに分ける。次に、グループ別の集計と傾向を調べ（クロス集計）、2乗検定の傾向を利用して、大学関係、人間関係、趣味の満足度や住まいの状況などの様々な調査項目との関連性を検証した。ここでは、有意差が強く現れるほど、関連が強いとみることが出来る。

また、生活満足度と他の調査項目（順序変数）の相関係数を利用して、関連性の強さを検証した。

この2つの面から、調査結果を整理し、その結果次のことが分かった。

金銭の余裕は、生活満足度を高める。

お金のやりくりの負担感は、生活満足度を低下させる。

趣味を行うことの満足度は、生活満足度ととても関連している。

スケジュール管理能力の高さは、生活満足度を高める。

友人関係の良好さよりも、友人の多さが生活満足度を高める。

家族関係の良好さは、生活満足度を高める。

住まいの状況は、生活満足度ととても関連している。

まず、「金銭の余裕」や「友人・家族関係の良好さ」が、生活満足度を高めることに関係するという事は、想像のつくことである。次に意外なのは、「趣味を行うことの満足度」と「住まいの状況」が、生活満足度を高めることにより関連があることである。

第2章 調査研究の成果

2.1 調査回答者の概要

調査対象者は、文教大学湘南校舎の学生152名で、「新聞論」と「プロモーションデザイン論」の2クラスで、紙面によるアンケートを実施した。

なお回答者標本は無作為抽出で作成してはいないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1から表2-1-4で確認しておく。表2-1-1の学年の分布では、一年生0.0%（0人）、二年生46.7%（71人）、三年生41.1%（63人）、四年生11.2%（17人）、無回答0.7%（1人）の計152人となっている。二年生と三年生の割合が高くなっている。

また、表2-1-2の性別の分布では、男性32.9%（50人）、女性66.4%（101人）、無回答0.7%（1人）の計142人となっている。女性の割合が高くなっている。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表 2-1-1 文教大学の学生（1年生は除く）

	1年	2年	3年	4年	無回答	合計
回答者	0.0% (0人)	46.7% (71人)	41.1% (63人)	11.2% (17人)	0.7% (1人)	100.0% (152人)
母集団	22.8% (457人)	26.5% (530人)	24.5% (490人)	26.2% (525人)		100.0% (2002人)

表 2-1-2 性別の割合

	男性	女性	無回答	合計
回答者	32.9% (50人)	66.4% (101人)	0.7% (1人)	100.0% (152人)
母集団	65.9% (1320人)	34.1% (682人)		100.0% (2002人)

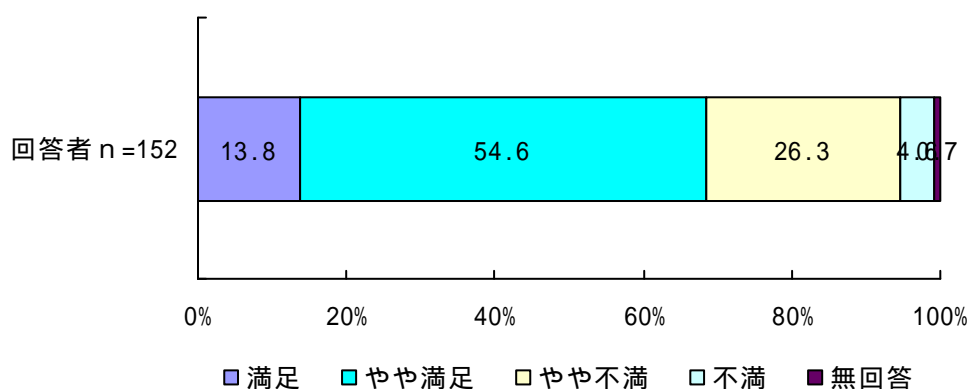
(注) 母集団は湘南キャンパス 2011.10 末時点である。

2.2 生活満足度

ここでは、回答者の生活満足度の調査結果を見ていく。さらに、今後の集計分析の方法について説明する。

「現在の生活に満足していますか。」という設問に、満足、やや満足している、やや不満、不満の4段階で回答してもらい、学生の生活満足度を調査した。その結果が図2-2-1である。

図 2-2-1 生活満足度



最も多かった回答は、「やや満足」で、54.6%であった。次に、「やや不満」が26.3%、「満足」が13.8%と続き、一番少なかった回答は「不満」の4.6%であった。

「満足」、「やや満足」と回答をした満足層が全体の68.4%、「やや不満」、「不満」と回答をした不満層が全体の30.9%という結果であった。

そこで、以降からは生活満足度と他の調査項目との関係を、以下の2つの方法で見ていくこととした。

(1) クロス集計

図2-2-1の生活満足度の結果から、満足・やや満足層104名、不満・やや不満層47名の2つのグループを作り、グループ毎に集計を行う。生活満足度に与える影響が大きい項目の場合、クロス集計の結果は、2乗検定では有意差を生じる。そこで、図とともに有意確率pの値を目安とする。pが小さいほどに、生活満足度との関連が強く、影響が大きい項目とする。

(2) 相関係数

生活満足度と他の調査項目の調査結果との相関係数を求める。これから関連の強さ = 影響の度合いを見ていく。r = 1、-1に近いほど相関が強く、r = 0に近いほど両変数間には相関がないと言える。

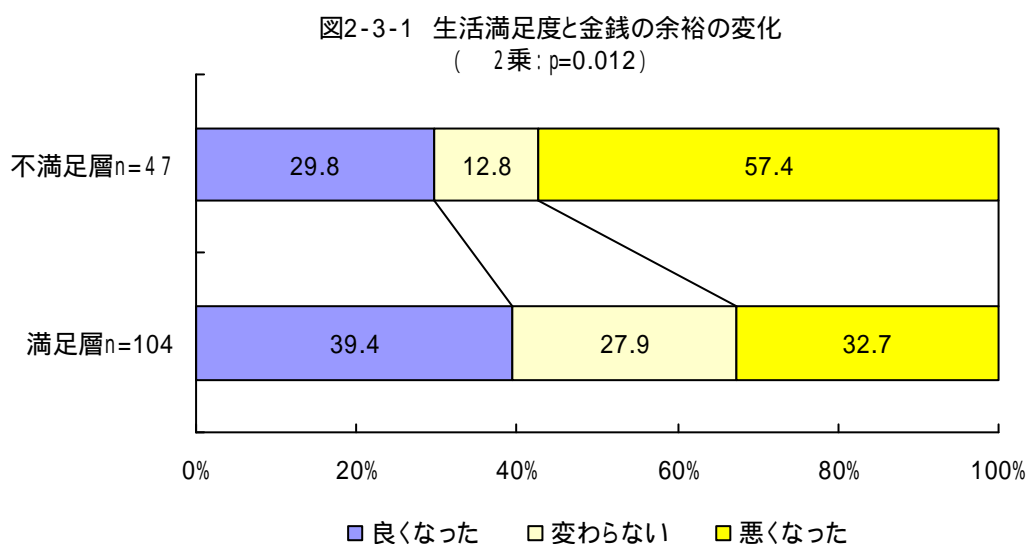
2.3 生活満足度と金銭面との関係

ここでは、「アルバイトの有無」、「毎月の金銭のやりくり状況」、「金銭の余裕」の金銭面にすることが、生活満足度を左右する要因であるかを検討したい。

まず、「アルバイトをしていますか」という設問に、「している」、「していない」で回答をもらった。それを生活満足度のグループ別に集計した結果、「している」という回答は、満足層が72.1%、不満足層は76.6%であった。「していない」という回答は、満足層が27.9%、不満足層が23.4%であった。アルバイトの有無について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.691$ で、有意差はみられなかった。従って、アルバイトの有無は、生活満足度に影響を与える可能性は少ないと考えられる。

次に、「大学生になってからの、金銭の余裕の変化」について、「とても良くなった」～「とても悪くなった」の5段階で回答をもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図2-3-1である。「とても良くなった・良くなった」という回答は、満足層が39.4%、不満足層は29.8%であった。「変わらない」という回答は、満足層が27.9%、不満足層が12.8%であった。「悪くなった・とても悪くなった」という回答は、満足層が32.7%、不満足層が57.4%であった。

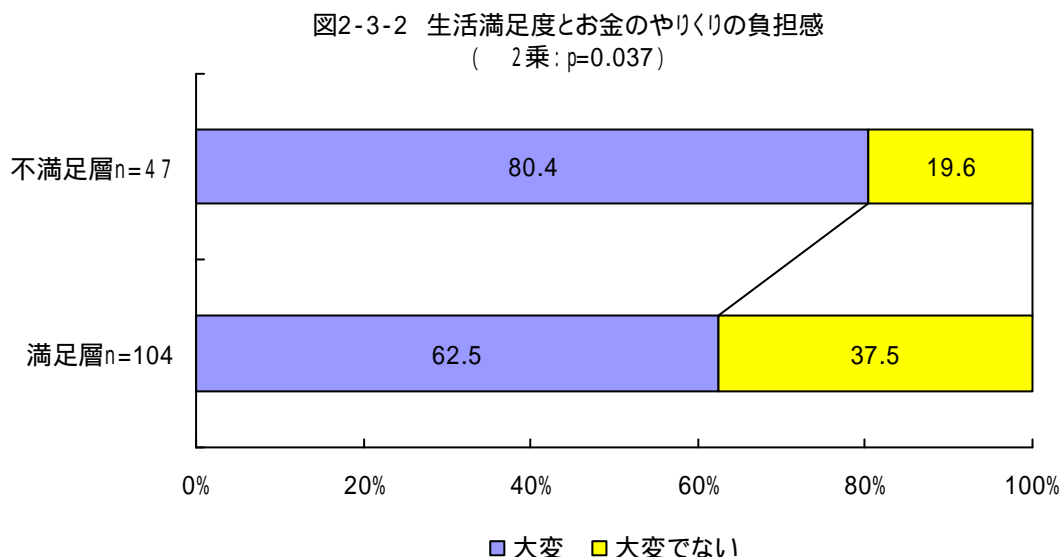


生活満足度と金銭の余裕の変化について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.012$ で、有意差がみられた。相関係数は、 0.182^* である。従って、金銭の余裕の変化は、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

最後に、「毎月のお金のやりくりは大変ですか」という設問について、「とても大変」～「大変

ではない」の4段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2-3-2 である。「とても大変・やや大変」という回答は、満足層が 62.5%、不満足層は 80.4%であった。「大変ではない・あまり大変ではない」という回答は、満足層が 37.5%、不満足層が 19.6%であった。



生活満足度とお金のやりくりの負担感について、満足層と不満足層の間の χ^2 検定では、 $p = 0.037$ で、有意差がみられた。相関係数は、 0.349^{**} である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性がともあると考えられる。

2.4 生活満足度と趣味との関係

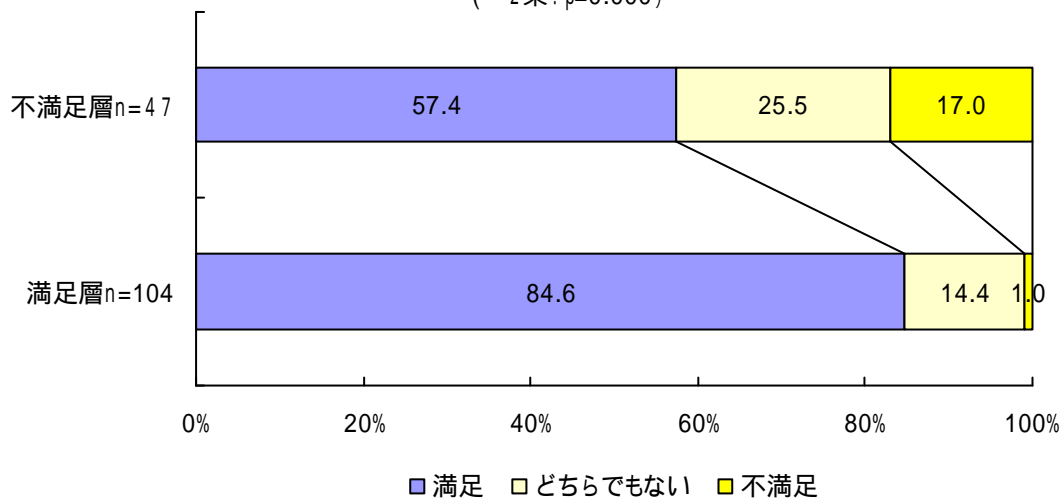
ここでは、趣味を行うことへの現状の満足度が、生活満足度を左右する要因であるかを検討したい。

「現状で趣味を行うことの満足度はいかがですか」という設問に、「満足」～「不満足」の5段階で回答をもらった

その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2-4-1 である。趣味を「満足に出来ている・やや満足に出来ている」という回答は、満足層が 84.6%、不満足層は 57.4%であった。「どちらでもない」という回答は、満足層が 14.4%、不満足層が 25.5%であった。「不満足・やや不満足」という回答は、満足層が 1.0%、不満足層が 17.0%であった。

生活満足度と趣味を行うことの満足度について、満足層と不満足層の間の χ^2 検定では、 $p = 0.000$ で、有意差がみられた。相関係数は、 0.349^{**} である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性がともあると考えられる。

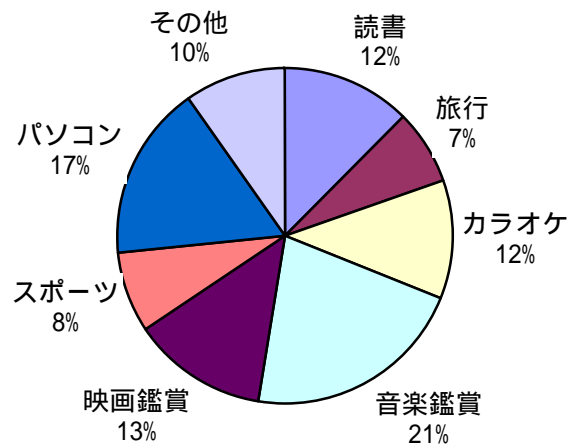
図2-4-1 生活満足度と趣味を行うことの満足度
(2乗: $p=0.000$)



補足：趣味の割合

「趣味はなんですか」という設問に読書、旅行、カラオケ、音楽鑑賞、映画鑑賞、スポーツ、パソコン、その他の8つで回答をもらった。その単純集計の結果が下記のグラフ図2-4-2である。

図2-4-2 回答者の趣味 n=152



2.5 生活満足度と大学の関係

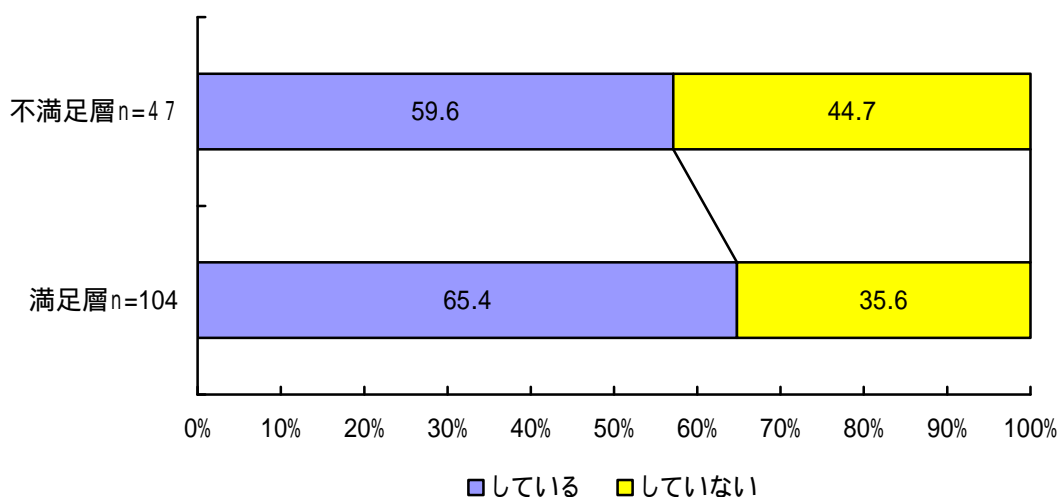
ここでは、「部活動・サークルに所属しているか」、「文教大学への入学意欲」、「大学の進級・卒業の見通し」、「大学への距離の変化」、「通学負担感」の大学に関することが、生活満足度を左右する要因であるかを検討したい。

まず、「部活動やサークルに所属していますか」という設問に、「している」、「していない」で

回答をしてもらった結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2 - 5 - 1 である。

「所属している」という回答は、満足層が 65.4%、不満足層は 59.6%であった。「所属していない」という回答は、満足層が 35.6%、不満足層が 44.7%であった。

図2-5-1 生活満足度と部活動への所属の有無



生活満足度と趣味を行うことの満足度について、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、有意差がみられなかった。従って、部活動やサークルの所属の有無は、生活満足度に影響を与える可能性がともあると考えられる。

次に、「文教大学への入学意欲はどのくらいでしたか」という設問に、「強かった」～「あまり強くなかった」の 4 段階で回答をしてもらった。その結果を生活満足度のグループ別に集計した。趣味を「強かった・やや強かった」という回答は、満足層が 37.5%、不満足層は 37.8%であった。「あまり強くなかった・強くなかった」という回答は、満足層が 62.5%、不満足層が 62.2%であった。

生活満足度と大学への入学意欲について、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 1.000$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、 -0.003 である。従って大学への入学意欲は、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「あなたは大学の進級・卒業について、見通しはいかがですか。」という設問に、「順調である」～「順調でない」の 4 段階で回答をしてもらった

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「順調である・やや順調である」という回答は、満足層が 76.9%、不満足層は 66.0%であった。「順調でない・やや順調でない」という回答は、満足層が 23.1%、不満足層が 34.0%であった。

生活満足度と進級・卒業の見通しについて、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.168$

で、有意差がみられなかった。相関係数は、0.115 である。従って、進級・卒業の見通しは、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「通学の負担感はどうですか」という設問に、「かなり負担」～「負担ではない」の4段階で回答をしてもらった

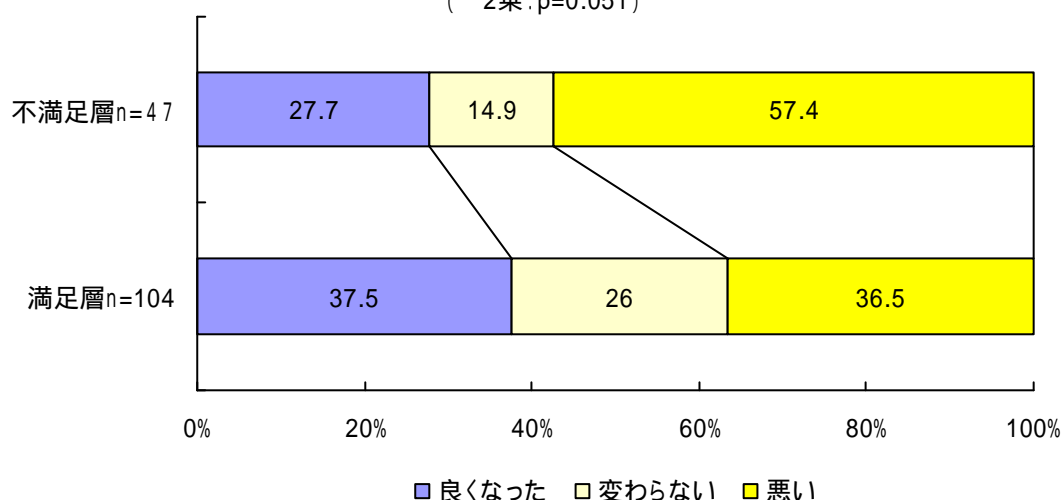
その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2 - 5 - 3 である。「かなり負担・やや負担」という回答は、満足層が 55.3%、不満足層は 63.8%であった。「負担ではない・あまり負担ではない」という回答は、満足層が 44.7%、不満足層が 36.2%であった。

生活満足度と通学の負担感について、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.375$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、 -0.080 である。従って、通学の負担感、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

最後に、「大学生になってからの、学校への距離の変化」について、という設問に、「とても良くなった」～「とても悪くなった」の5段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「とても良くなった・良くなった」という回答は、満足層が 37.5%、不満足層は 27.7%であった。「変わらない」という回答は、満足層が 26.0%、不満足層が 14.9%であった。「悪くなった・とても悪くなった」という回答は、満足層が 36.5%、不満足層が 57.4%であった。

図2 - 5 - 4 生活満足度と学校への距離の変化
(2乗: $p=0.051$)



生活満足度と大学への距離の変化について、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.051$ で、有意差はみられなかった。相関係数は、 0.163^* である。従って、学校への距離の変化は、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。しかし、不満足層の半数以上が、悪いと感じていることから、多少の影響はあると考えることもできる。

2.6 生活満足度と性格との関係

ここでは、「あなたの性格や傾向についてお聞きします（リーダーシップ、積極性、孤独に耐えられるか、相談を聞くことが多いか、スケジュール管理能力、目標達成能力）」、「予定のない日が少ないか」、「スケジュールは埋めたいか」といった性格や傾向に関することが、生活満足度を左右する要因であるかを検討したい。

まず、「リーダーシップがある」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が41.3%、不満足層は36.2%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が58.7%、不満足層が63.8%であった。

生活満足度とリーダーシップの有無について、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.593$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、0.049である。従って、リーダーシップの有無は、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「積極性がある」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が52.9%、不満足層は42.6%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が47.1%、不満足層が57.3%であった。

生活満足度と積極性の有無について、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.292$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、0.096である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「孤独に耐えられる」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が69.2%、不満足層は72.3%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が30.8%、不満足層が27.7%であった。

生活満足度と孤独に耐えられるかについて、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.848$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、-0.031である。従って、孤独に耐えられるかは、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「相談を聞くことが多い」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階

で回答をしてもらった。

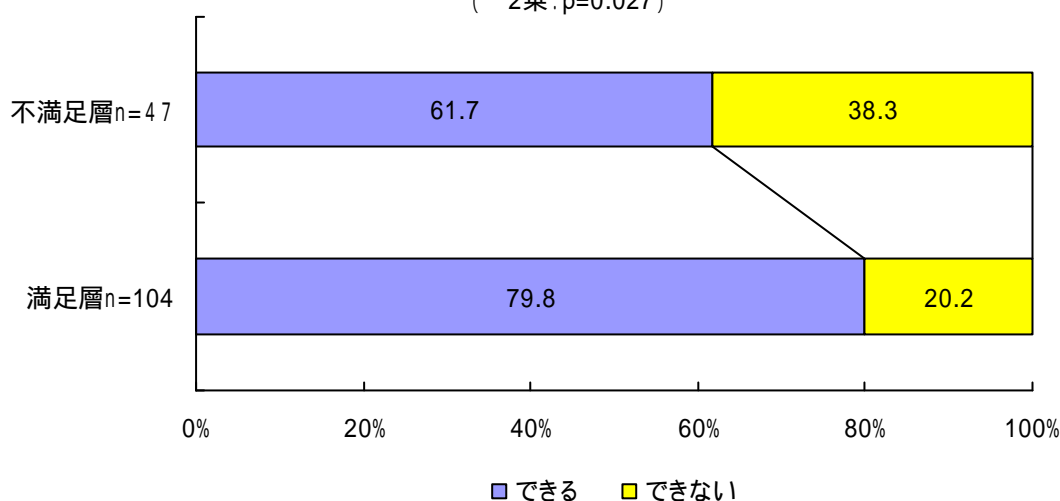
その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が73.1%、不満足層は57.4%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が26.9%、不満足層が42.6%であった。

生活満足度と相談を聞くことが多いかについて、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.062$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、0.155である。従って、相談を聞くことが多いかは、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「スケジュール管理ができるか」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2-6-1 である。「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が79.8%、不満足層は61.7%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が20.2%、不満足層が38.3%であった。

図2-6-1 生活満足度とスケジュール管理能力
(2乗: $p=0.027$)



生活満足度とスケジュール管理能力について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.027$ で、有意差がみられた。相関係数は、0.192*である。従って、スケジュール管理能力は、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

次に、「目標達成ができるか」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をしてもらった。その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2-6-1 である。「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が62.5%、不満足層は44.7%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が37.5%、不満足層が55.3%であった。

生活満足度と目標達成能力について、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.051$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、 0.167^* である。従って、目標達成能力は、生活満足度にやや影響を与える可能性があると考えられる。

次に、「予定が何も無い日は少ない」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をしてもらった。その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が59.6%、不満足層は53.2%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が40.4%、不満足層が46.8%であった。

生活満足度と予定の多さについて、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.481$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、 0.060 である。従って、予定の多さは、生活満足度に影響を与える可能性がとてないと考えられる。

最後に、「スケジュールは出来るだけ埋めたい」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が45.2%、不満足層は36.2%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が54.8%、不満足層が63.8%であった。

生活満足度とスケジュールの密度について、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.374$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、 0.085 である。従って、スケジュールの密度は、生活満足度に影響を与える可能性がとてないと考えられる。

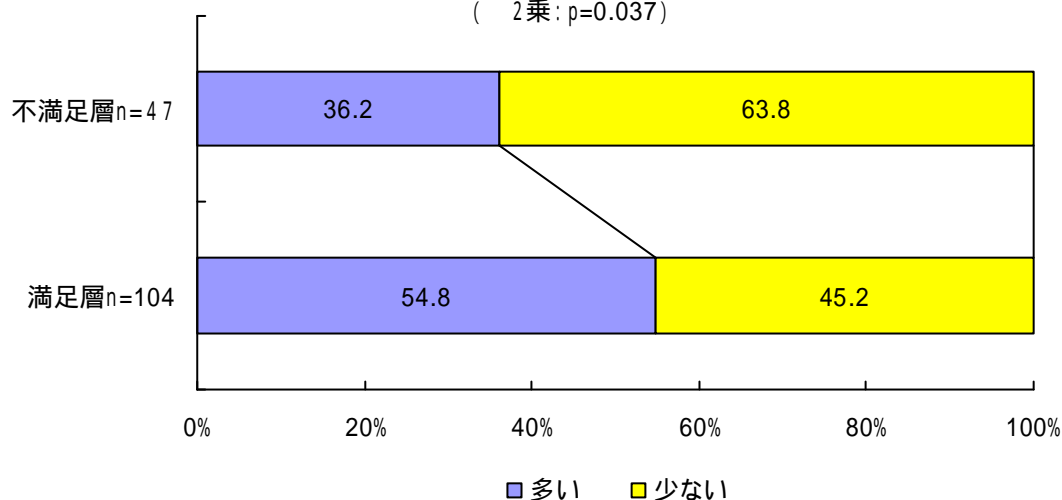
2.7 生活満足度と友人・家族との関係

ここでは、「友人は多いですか」、「人付き合いによって、自分の時間が少ない」、「大学生になってからの家族との関係」、「大学生になってからの友人との関係」、の友人・家族に関することが、生活満足度を左右する要因であるかを検討したい。

まず、「友人は多い方ですか」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2-7-1 である「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が54.8%、不満足層は36.2%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が45.2%、不満足層が63.8%であった。

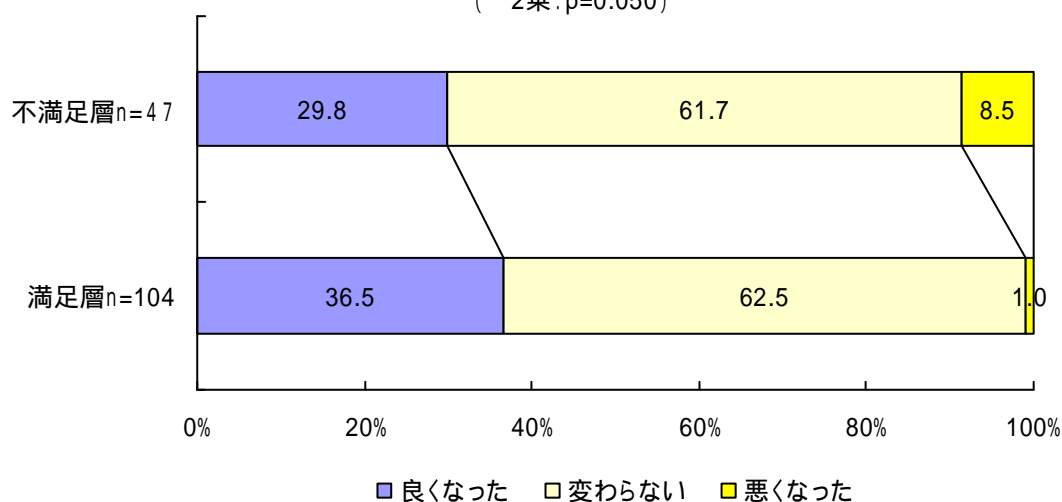
図2-7-1 生活満足度と友人の多さ
(2乗: p=0.037)



生活満足度と友人の多さについて、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.037$ で、有意差がみられた。相関係数は、 0.173^* である。従って、友人の多さは、生活満足度に影響を与える可能性がとてもあると考えられる。

次に、「大学生になってから、友人との関係はどう変わりましたか」という設問に、「満足」～「不満足」の5段階で回答をしてもらった結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図2-4-3である。「とても良くなった・良くなった・」という回答は、満足層が36.5%、不満足層は29.8%であった。「変わらない」という回答は、満足層が62.5%、不満足層が61.7%であった。「悪くなった・とても悪くなった」という回答は、満足層が1.0%、不満足層が8.5%であった。

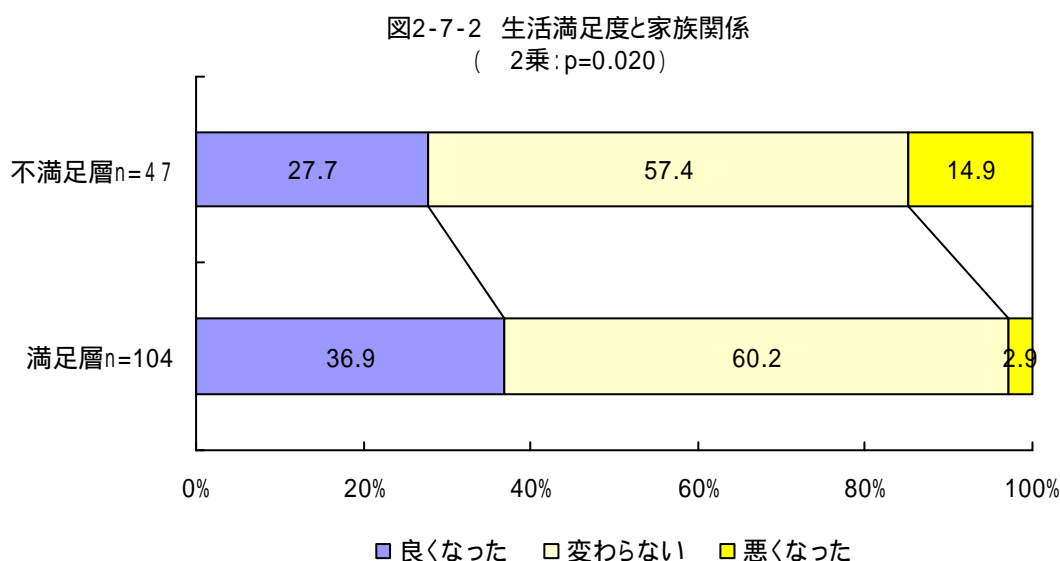
図2-7-3 生活満足度と友人関係
(2乗: p=0.050)



生活満足度と友人関係について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.050$ で、有

意差がみられた。相関係数は、0.125 である。従って、友人関係は、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

次に、「大学生になってから、家族との関係はどう変わりましたか」という設問に、「とても良くなった」～「とても悪くなった」の5段階で回答をしてもらった結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図2-4-2である。「とても良くなった・良くなった・」という回答は、満足層が84.6%、不満足層は57.4%であった。「変わらない」という回答は、満足層が14.4%、不満足層が25.5%であった。「悪くなった・とても悪くなった」という回答は、満足層が1.0%、不満足層が17.0%であった。



生活満足度と家族関係について、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.020$ で、有意差がみられた。相関係数は、0.171*である。従って、家族関係は、生活満足度に影響を与える可能性がとてもあると考えられる。

最後に、「人付き合いによって、自分の時間が少ないですか」という設問に、「当てはまる」～「当てはまらない」の4段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2-7-1 である「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が30.8%、不満足層は40.4%であった。「当てはまらない・やや当てはまらない」という回答は、満足層が69.2%、不満足層が59.6%であった。

生活満足度と人付き合いについて、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.268$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、-0.095 である。従って、人付き合いは、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

2.8 生活満足度とその他の関係

ここでは、「将来についての見通し」、「自由時間の量」、「家事の辛さ」、「住宅の住み心地」、「現在の住み方」に関することが、生活満足度を左右する要因であるかを検討したい。

まず、「あなたの将来について、見通しはいかがですか。」という設問に、「楽観視している」～「悲観視している」の4段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「楽観視している・やや楽観視している」という回答は、満足層が47.1%、不満足層は52.9%であった。「悲観視している・やや悲観視している」という回答は、満足層が30.4%、不満足層が69.6%であった。

生活満足度と将来の見通しについて、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.073$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、0.156である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「大学生になってから、自由時間の量はどう変わりましたか」という設問に、「とても良くなった」～「とても悪くなった」の5段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「とても良くなった・良くなった・」という回答は、満足層が76.9%、不満足層は68.1%であった。「変わらない」という回答は、満足層が10.6%、不満足層が14.9%であった。「悪くなった・とても悪くなった」という回答は、満足層が12.5%、不満足層が17.0%であった。

生活満足度と自由時間の量について、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.516$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、0.086である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「大学生になってから、家事の辛さはどう変わりましたか」という設問に、「とても良くなった」～「とても悪くなった」の5段階で回答をしてもらった。

その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「とても良くなった・良くなった・」という回答は、満足層が11.5%、不満足層は10.6%であった。「変わらない」という回答は、満足層が39.4%、不満足層が52.3%であった。「悪くなった・とても悪くなった」という回答は、満足層が49.0%、不満足層が36.2%であった。

生活満足度と家事の辛さについて、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.270$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、-0.83である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

次に、「大学生になってから、住宅の住み心地どう変わりましたか」という設問に、「とても良くなった」～「とても悪くなった」の5段階で回答をもらった。

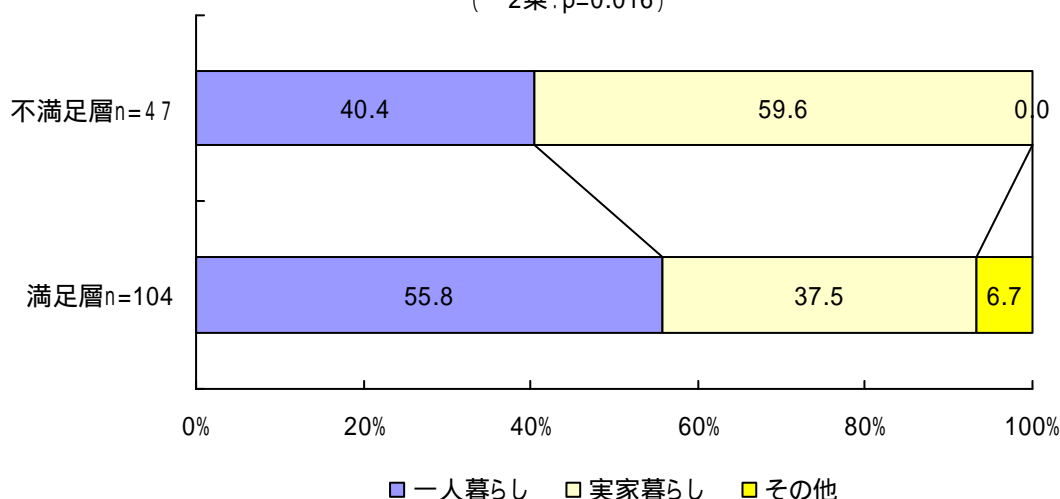
その結果を生活満足度のグループ別に集計した。「とても良くなった・良くなった・」という回答は、満足層が32.7%、不満足層は31.9%であった。「変わらない」という回答は、満足層が51.0%、不満足層が51.1%であった。「悪くなった・とても悪くなった」という回答は、満足層が16.3%、不満足層が17.0%であった。

生活満足度と住宅の住み心地について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.993$ で、有意差がみられなかった。相関係数は、0.010である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性がないと考えられる。

最後に、「現在の住まいの状況は」という設問に、「一人暮らし」、「実家暮らし」、「その他」の3つで回答をもらった

その結果を生活満足度のグループ別に集計したのが下記グラフ図 2-8-1 である。「一人暮らし」という回答は、満足層が55.8%、不満足層は40.4%であった。「実家暮らし」という回答は、満足層が37.5%、不満足層が59.6%であった。「その他」という回答は、満足層が6.7%、不満足層が0.0%であった。

図2-8-1 生活満足度と住まいの状況
(2乗: $p=0.016$)



生活満足度と住まいの状況について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.016$ で、有意差がみられた。従って、住まいの状況は、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

第3章 生活満足度の生活状況による要因

3.1 現在の生活環境

第2章では、生活満足度について様々な要因との関係を分析した。ここでは、生活満足度と生活環境についてさらに分析をする。

この章での、今後の集計分析の方法について説明する。ここでは、「生活満足度と現在の住まいの状況」の設問を利用し、一人暮らしと実家暮らしで分けて、生活満足度への要因の関係を分析する。以降からは生活満足度と暮らし方と、他の調査項目との関係を、相関係数から見ていくこととした。

この調査の回答者の一人暮らしと実家暮らしの割合は、一人暮らし 50.7% (77人)、実家暮らし 44.1% (67人)である。

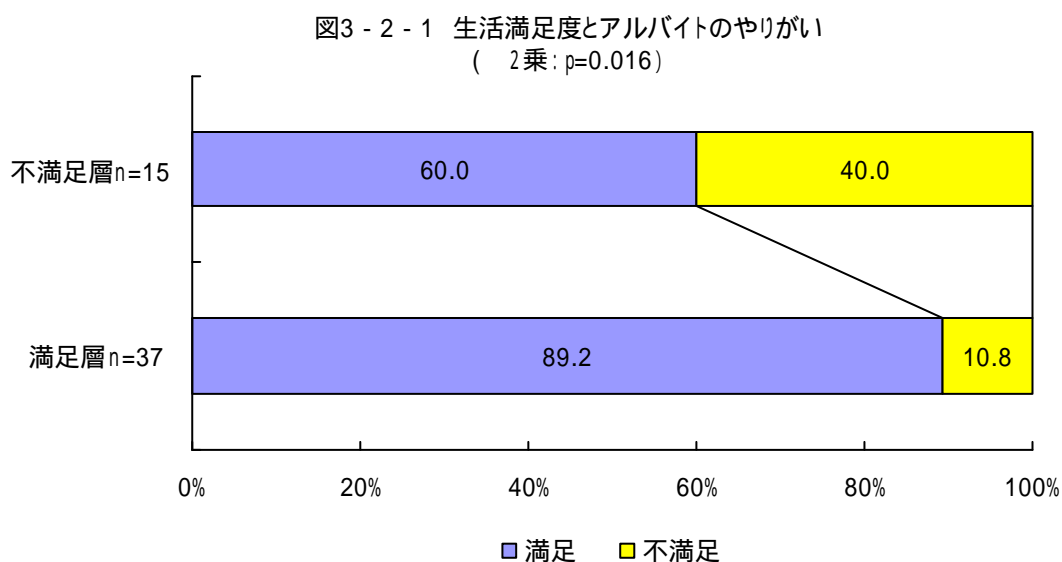
3.2 一人暮らしの場合の生活満足度の要因

生活満足度別に一人暮らしの人の、他の変数との相関係数を求めた。その結果、相関係数に優位な差がみられたのが以下の項目である。

	相関係数	n
アルバイトのやりがい	0.301*	52
趣味を行うことの満足度	0.253*	77
大学への入学意欲	0.251*	77

このことから、さらにクロス集計を行った。

アルバイトのやりがい



「アルバイトの仕事にやりがいを感じていますか」という設問に、「とても感じる～感じない」の4段階で回答をしてもらった。その結果、「とても感じる・やや感じる」という回答は、満足層が89.2%、不満足層は60.0%であった。「あまり感じない・感じない」という回答は、満足層が10.8%、不満足層が40.0%であった。

生活満足度と趣味を行うことの満足度について、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.016$ で、有意差がみられた。相関係数は、 0.301^* である。従って、アルバイトのやりがいは、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。 趣味を行うことの満足度

「現状で趣味を行うことの満足度はいかがですか。」という設問に、「満足～不満足」の5段階で回答をしてもらった。その結果、「満足・やや満足」という回答は、満足層が82.8%、不満足層は68.4%であった。「どちらでもない」という回答は、満足層が17.2%、不満足層が15.8%であった。「やや不満足・不満足」という回答は、満足層が0%、不満足層が15.8%であった

生活満足度と趣味を行うことの満足度について、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.008$ で、有意差がみられた。相関係数は、 0.251^* である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

大学への入学意欲

「文教大学への入学意欲はどのくらいでしたか。」という設問に、「強かった～強くなかった」の4段階で回答をしてもらった。その結果、「強かった・やや強かった」という回答は、満足層が36.2%、不満足層が21.1%であった。「あまり強くなかった・強くなかった」という回答は、満足層が63.8%、不満足層が78.9%であった

生活満足度と趣味を行うことの満足度について、相関係数は、 0.251^* であるが、満足層と不満足層の間の2乗検定では、 $p = 0.221$ で有意差がみられなかった。従って、大学への入学意欲は、生活満足度に影響を与える可能性が少ないと考えられる。

3.3 実家暮らしの場合の生活満足度の要因

生活満足度別に実家暮らしの人の、他の変数との相関係数を求めた。その結果、相関係数に優位な差がみられたのが以下の項目である。

趣味を行うことの満足度

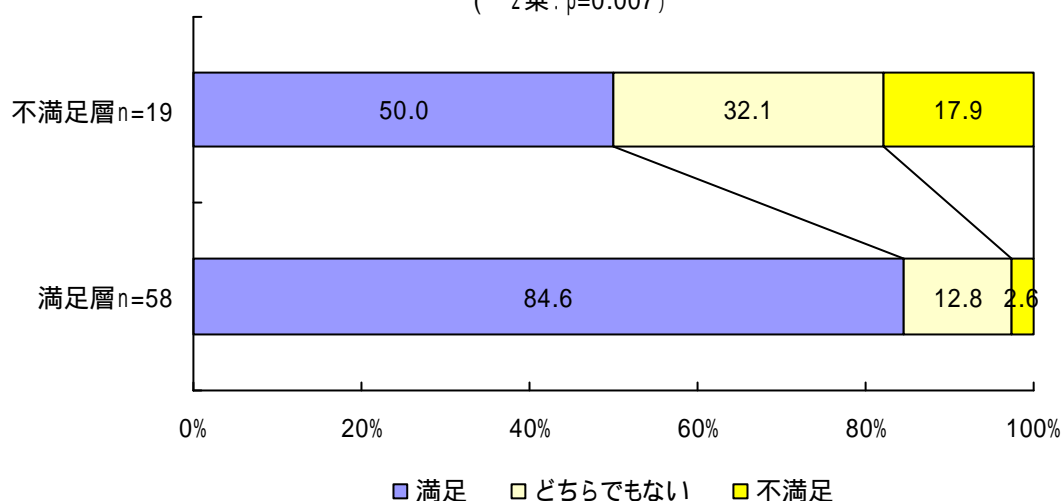
「現状で趣味を行うことの満足度はいかがですか。」という設問に、「満足～不満足」の5段階で回答をしてもらった。その結果、「満足・やや満足」という回答は、満足層が84.6%、不満足層

は50.0%であった。「どちらでもない」という回答は、満足層が12.8%、不満足層が32.1%であった。「やや不満足・不満足」という回答は、満足層が2.6%、不満足層が17.9%であった。

	相関係数	n
趣味を行うことの満足度	0.356**	66
友人の数	0.317**	67
スケジュール管理能力	0.294*	67
目標達成能力	0.285*	67
人付き合いと自分の時間の量	-0.271*	67
一人暮らしをしたいか	-0.255*	66

このことから、さらにクロス集計を行った。生活満足度と趣味を行うことの満足度について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.007$ で、有意差がみられた。相関係数は、0.356**である。従って、趣味を行うことの満足度は、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

図3 - 3 - 1 生活満足度と趣味を行うことの満足度
(2乗: $p=0.007$)



友人の数

「友人は多い方ですか」という設問に、「当てはまる～当てはまらない」の4段階で回答をしてもらった。その結果、「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が48.7%、不満足層は17.9%であった。「あまり当てはまらない・当てはまらない」という回答は、満足層が51.3%、不満足層が82.1%であった

生活満足度と友人の数について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.009$ で、有意差がみられた。相関係数は、 0.317^{**} である。従って、友人の数は、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

スケジュール

「スケジュールは出来るだけ埋めたいですか」という設問に、「当てはまる～当てはまらない」の4段階で回答をもらった。その結果、「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が35.9%、不満足層は28.6%であった。「あまり当てはまらない・当てはまらない」という回答は、満足層が64.1%、不満足層が71.4%であった

生活満足度と友人の数について、相関係数は、 0.317^{**} であったが、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.529$ で、有意差がみられなかった。従って、スケジュールを埋めたいかどうかは、生活満足度に影響を与える可能性が少ないと考えられる。

目標達成能力

「目標を達成できますか」という設問に、「当てはまる～当てはまらない」の4段階で回答をもらった。その結果、「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が69.2%、不満足層は30.8%であった。「あまり当てはまらない・当てはまらない」という回答は、満足層が46.4%、不満足層が53.6%であった

生活満足度と友人の数について、相関係数は、 0.294^* であったが、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.061$ で、有意差がみられなかった。従って、目標達成能力は、生活満足度に影響を与える可能性が少ないと考えられる。

人付き合いと自分の時間の量

「人付き合いによって、自分の時間が少ないですか」という設問に、「当てはまる～当てはまらない」の4段階で回答をもらった。その結果、「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が15.4%、不満足層は39.3%であった。「あまり当てはまらない・当てはまらない」という回答は、満足層が84.6%、不満足層が60.7%であった

生活満足度と友人の数について、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.027$ で、有意差がみられた。相関係数は、 -0.271^* である。従って、友人の数は、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

一人暮らしをしたいか

「一人暮らしをしたいですか」という設問に、「とてもしたい～ややしたい」の4段階で回答をもらった。その結果、「あまりしたくない・したくない」という回答は、満足層が53.8%、

不満足層は 81.5%であった。「あまり当てはまらない・当てはまらない」という回答は、満足層が 46.2%、不満足層が 18.5%であった

生活満足度と友人の数について、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.021$ で、有意差がみられた。相関係数は、 -0.255^* である。従って、一人暮らしをしたいかどうかは、生活満足度に影響を与える可能性があると考えられる。

3.4 生活環境による生活満足度の要因の比較

(1) 一人暮らしで上位にあった要因は、実家暮らしではどう影響しているのか

アルバイトのやりがいについて、実家暮らしの人のみでクロス集計をした。その結果、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.083$ で有意差がみられなかった。しかし、やりがいを「とても感じる・やや感じる」という回答は、満足層が 87.2%、不満足層は 68.2%であった。このことから、生活環境に関わらず、アルバイトのやりがいが生活満足度を高めることに影響を与えていると言える。

趣味を行うことの満足度については、3.2. と 3.3. で述べたように、生活環境によらず、有意差がみられた。

大学への入学意欲について、一人暮らしの人では、「強かった・やや強かった」という回答は、満足層が 36.2%、不満足層が 21.1%で、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.221$ で有意差がみられなかった。実家暮らしの人でも、「強かった・やや強かった」という回答は、満足層が 35.9%、不満足層が 50.0%で、満足層と不満足層の間の 2 乗検定では、 $p = 0.258$ で有意差がみられなかった。しかし、実家暮らしの人では、生活満足度が不満足な人の方が、大学への入学意欲が高かったことが分かる。このことから、大学への入学意欲は、生活満足度を高めることに影響を与える可能性が少ないと考えられる。

(2) 実家暮らしで上位にあった要因は、一人暮らしではどう影響しているのか

友人の多さについて、一人暮らしの人のみでクロス集計をした。その結果、満足度と不満足層の間での 2 乗検定では、 $p = 0.631$ で有意差がみられなかった。友人の数が多いという回答は、満足層が 56.9%、不満足層は 63.2%であった。これは、実家暮らしの人の満足層が 48.7%、不満足層は 17.9%という結果と比べると、一人暮らしの人の方が、友人が多いことが分かる。特に、生活満足度不満足層の差に現れている。このことから、友人の多さは、生活満足度に影響があると言える。

スケジュールの多さについて、実家暮らしでは、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.529$ で有意差がみられなかったが、一人暮らしでも、2乗検定では、 $p = 0.742$ で有意差がみられなかった。従って、スケジュールを埋めたいかどうかは、生活満足度に影響を与える可能性が少ないと考えられる。

目標達成能力について、実家暮らしでは、「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が 69.2%、不満足層は 30.8%であった。一人暮らしでは、「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が 56.9%、不満足層は 42.1%であった。満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.262$ で、有意差がみられなかった。従って、目標達成能力は、生活満足度に影響を与える可能性が少ないと考えられる。また、目標達成能力は、実家暮らしの方がやや高いことが分かった。実家暮らしの人は、59.7%が目標を達成できると回答しているのに対し、一人暮らしの人は、53.2%が目標達成できると回答している。

人付き合いと自分の時間の量について、実家暮らしの人では、有意差がみられた。しかし、一人暮らしの人では、満足層と不満足層の間の 2乗検定では、 $p = 0.746$ で、有意差がみられなかった。実家暮らしでは、「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が 15.4%、不満足層は 39.3%であった。「あまり当てはまらない・当てはまらない」という回答は、満足層が 84.6%、不満足層が 60.7%であった。一人暮らしでは、「当てはまる・やや当てはまる」という回答は、満足層が 37.9%、不満足層は 42.1%であった。「あまり当てはまらない・当てはまらない」という回答は、満足層が 62.1%、不満足層が 57.9%であった。どちらも、人付き合いで自分の時間の量が減っていないことが分かる。また、人付き合いによって自分の時間が少なく感じている人が、不満足層の方が多いことも分かる。従って、人付き合いと自分の時間の量は、生活満足度に影響があると言える。

第4章 まとめと今後の課題

4.1 研究のまとめ

今回の調査で、生活満足度と関連を検証した項目の一覧を下記の総括表にまとめる。

2乗検定値 p は 0 に近いほど、生活満足度に与える影響が強い要因である。相関係数は大きいほどに、生活満足度に与える影響が強い要因である。 n は回答者の人数である。

p が 0.0 台で相関係数が 0.3 より大きい要因、 p が 0.0 台で相関係数が 0.0 台～2.9 台にある要因、 その他に 3 区分した。

p が 0.0 台で相関係数が 0.3 より大きい要因

	2乗値 p	相関係数	n
お金のやりくり状況の負担感	0.037	0.349**	151
趣味を行うことの満足度	0.000	0.349**	151

この2つの要因は、生活満足度と特に関連が強く表れた項目である。お金のやりくり状況に負担を感じていない人は、生活満足度が高いことが分かった。趣味を行うことの満足度が高い方が、生活満足度が高いことが分かった。

p が 0.0 台で相関係数が 0.0 台～0.29 台にある要因

	2乗値 p	相関係数	n
住まいの状況	0.016		151
スケジュール管理能力	0.027	0.192*	151
金銭の余裕の変化	0.012	0.182*	151
友人の多さ	0.037	0.173*	151
家族関係	0.020	0.171*	151
目標達成能力	0.051	0.167*	151
大学への距離の変化	0.051	0.163*	151
将来の見通し	0.073	0.156	151
相談を聞くことが多いか	0.062	0.155	151
友人関係	0.050	0.125	151

次に、上記の 10 つの項目は、相関係数でみると、生活満足度と関連の強いとはいえないが、

2乗検定でみると、生活満足度に影響を与える要因であると言える。

その他

	2乗値 p	相関係数	n
アルバイトの有無	0.691		152
部活動への所属			151
進級・進学の見通し	0.168	0.115	151
積極性の有無	0.292	0.096	151
自由時間量	0.561	0.086	151
スケジュールの密度	0.374	0.085	151
予定がない日の少なさ	0.481	0.060	151
リーダーシップの有無	0.593	0.049	151
住宅の住み心地	0.993	0.010	151
人付き合い	0.268	-0.095	151
家事の辛さ	0.270	-0.083	151
通学の負担感	0.375	-0.080	151
孤独に耐えられるか	0.848	-0.031	151
入学意欲	1.000	-0.003	151

上記の4つの項目は、生活満足度に影響を与える要因ではないと考える。

調査の結果分かったことを下記に列挙する。

金銭の余裕は、生活満足度を高める。

お金のやりくりの負担感は、生活満足度を低下させる。

趣味を行うことの満足度は、生活満足度ととても関連している。

スケジュール管理能力の高さは、生活満足度を高める。

友人関係の良好さよりも、友人の多さが生活満足度を高める。

家族関係の良好さは、生活満足度を高める。

住まいの状況は、生活満足度ととても関連している。

全体的にみると、金銭面、友人関係、家族関係、趣味が、生活満足度を高める主な要因であることが分かった。特に、趣味が満足に行えていることが、最も生活満足度を高めることに影響している。また、大学の満足度は生活満足度には関係がある要因ではないことも分かった。

4.2 今後の課題

趣味を行うことの満足度が、最も生活満足度を高めることに影響しているということが分かった。そのため、趣味の頻度や内容の調査項目の考案をして、再度調査を行えば、より成果が得られると思う。

資料1. 参考にしたサイト一覧

- ・ 国立社会保障人口問題研究所

<http://www.ipss.go.jp/index.asp>

- ・ 平成17年国勢調査

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/index.htm>

- ・ 第6回世帯変動調査

http://www.ipss.go.jp/ps-dotai/j/DOTAI6/NSHC06_top.asp

- ・ 平成20年 国民生活基礎調査

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa08/index.html>

- ・ 一人暮らしに関する意識調査

<http://www.zentaku.or.jp/public/researchreport/pdf/2011fudosanishiki02.pdf>

- ・ 若者の生活意識に関するアンケート調査

http://www.nri.co.jp/souhatsu/research/2008/pdf/rd200809_01.pdf

- ・ 『身近な環境問題』 ファミリーシリーズ 『地球は今』 第6巻

- ・ 環境問題に関する世論調査 内閣府大臣官房政府広報室

<http://www8.cao.go.jp/survey/h17/h17-environment/index.html>

- ・ 環境に関する生活者の意識調査 2008

<http://www.hakuhodo.co.jp/pdf/2008/20080611.pdf>

- ・ 環境問題・エコ意識に関する調査 2008年11月発行 株式会社電通リサーチ

http://www.dentsuresearch.co.jp/service/report/pdf/2008-11_eco.pdf

- ・ 文部科学省 学校基本調査

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm

資料2. 調査の単純集計

生活環境と生活意識の調査 単純集計結果

情報学部広報学科「社会調査」小室奈緒

社会調査の授業のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1. アルバイトをしていますか。(1つに) n = 152

1. している 73.7	2. していない 26.3	問6へ
--------------	---------------	-----

問2. アルバイトをどれくらいしていますか。(1つに) n = 112

1. 週1日~2日 33.9	2. 週3日~4日 53.6	3. 週5日~6日 11.6	4. 毎日 0.9
----------------	----------------	----------------	-----------

問3. アルバイトの仕事にやりがいを感じていますか。(1つに) n = 112

1. とても感じる 26.8	2. やや感じる 51.8	3. あまり感じない 18.8	4. 感じない 2.7
----------------	---------------	-----------------	-------------

問4. アルバイト代を1番何に使いますか。(1つに) n = 112

1. 食費 17.9	2. 趣味 50.9	3. 学校関係 3.6	4. 家賃 0.9
5. 交通費 5.4	6. 服 15.2	7. その他 6.3	

問5. 毎月の収入はどれくらいですか。(1つに) n = 112

1. 2万円未満 0.9	2. 2~4万円以上 30.4	3. 4~6万円未満 32.1
4. 6~8万円未満 21.4	5. 8万円以上 15.2	

問6. 毎月、自由に使っているお金はどれくらいですか。(1つに) n = 152

1. 2万円未満 28.3	2. 2~4万円以上 44.7	3. 4~6万円未満 20.4
4. 6~8万円未満 3.3	5. 8万円以上 3.3	

問7. 毎月のお金のやりくりは大変ですか。(1つに) n = 152

1. とても大変 29.6	2. やや大変 38.2	3. あまり大変ではない 24.3	4. 大変ではない 7.2
無回答 0.7			

問8. 何に一番お金がかかることが大変ですか。(1つに) n = 152

1. 食費 28.3	2. 趣味 31.6	3. 学校関係 11.2	4. 家賃 7.9
5. 交通費 15.1	6. 通信費 3.3	7. 特にない 2.6	

問9. 部活動やサークルに所属していますか。(あてはまるだけ) n = 152

1. 部活 19.7	2. サークル 44.1	3. 所属していない 38.2	問11へ
------------	--------------	-----------------	------

問10. 部活動やサークルにやりがいや楽しさを感じていますか。(1つに) n = 94

1. とても感じる 40.4	2. どちらかと言えば感じる 40.4
3. どちらかと言えば感じない 14.9	4. 感じない 4.3

問11. 文教大学への入学意欲はどのくらいでしたか。(1つに) n = 152

1. 強かった 9.2 2. やや強かった 27.6 3. あまり強くなかった 36.8 4. 強くなかった 25.0
無回答 1.3

問12. この大学に来た一番の理由は何ですか。(1つに) n = 152

1. 近いから 2.6 2. 興味のある学科があったから 65.8 3. なんとなく 8.6
4. 学費が安いから 0.0 5. カリキュラムが魅力的だったから 5.3 6. その他 17.1
無回答 0.7

問13. 授業にどれくらい出席しますか。(1つに) n = 152

1. 必ず出席する 23.7 2. ほぼ出席する 50.7 3. ときどき休む 23.7 4. 休むことが多い 2.0

問14. 遅刻や欠席をしますか。(1つに) n = 151

1. 必ずしない 7.9 2. ほぼしない 49.3 3. ときどきする 34.2 4. することが多い 7.9
無回答 0.7

問15. 授業をどのように受けることが多いですか。(1つに) n = 152

1. かなり集中して受ける 2.6 2. やや集中して受ける 29.6
3. 時々集中しないことがある 58.6 4. 集中しないことが多い 8.6
無回答 0.7

問16. 課題にどのように取り組むことが多いですか。(1つに) n = 152

1. 積極的に取り組む 11.2 2. やや積極的に取り組む 57.2
3. 時々積極的に取り組んでいない 25.7 4. 積極的ではないことが多い 5.9

問17. あなたは大学の進級・卒業について、見通しはいかがですか。(1つに) n = 152

1. 順調である 36.8 2. やや順調である 36.2 3. やや順調でない 21.7 4. 順調でない 5.3

問18. あなたの将来についての見通しはいかがですか。(1つに) n = 152

1. 楽観視している 7.2 2. やや楽観視している 34.2 3. やや悲観視している 40.1
4. 悲観視している 17.8 無回答 0.7

問19. あなたの性格や傾向についてお聞きします。(それぞれ1つに) n = 152

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. リーダーシップがある	5.3	34.2	41.4	19.1
b. 積極性がある	14.5	34.9	36.2	14.5
c. 孤独に耐えられる	32.9	36.8	20.4	9.9
d. 相談を聞くことが多い	20.4	47.4	23.7	8.6
e. スケジュール管理が出来る	22.4	51.3	16.4	9.9
f. 目標を達成出来る	9.2	47.4	37.5	5.9

問20. 趣味はなんですか。(あてはまるだけに) n = 152

1. 読書 40.8 2. 旅行 23.7 3. カラオケ 38.2 4. 音楽鑑賞 69.7
5. 映画鑑賞 43.4 6. スポーツ 25.7 7. パソコン 55.9 8. その他 31.6

問21. 現状で趣味を行うことの満足度はいかがですか。(1つに) n = 152

1. 満足 26.3 2. やや満足 50.0 3. どちらでもない 17.8 4. やや不満足 3.9 5. 不満足 2.0

問22. 次のA～Dの各項目の当てはまる度合いを教えてください。(それぞれ一つに) n = 152

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
A. 予定が何も無い日は少ない	29.6	28.3	28.3	13.8
B. 友人は多い方だ	11.2	38.4	40.8	9.9
C. 人付き合いによって、自分の時間が少ない	6.6	27.6	46.1	19.7
D. スケジュールは出来るだけ埋めたい	17.1	25.0	34.9	23.0

問23. 普段関わりがある人は誰ですか。(あてはまるだけ) n = 152

1. 同世代 89.4 2. 部活、サークル 50.7 3. 他学部 17.1 4. 他大学 21.7
5. 過去の同級生 41.4 6. 年上 38.8 7. 年下 19.7 8. その他 10.5

問24. 大学生になってから、意識や考え方に変化があった項目はありますか。(あてはまるだけ) n = 152

1. 家族 50.7 2. 友人 41.2 3. お金 68.4 4. 勉強 30.9 5. 資格 22.4
6. 就職 69.7 7. 自立心 52.6 8. 趣味 38.2 9. その他 7.2 無回答 1.3

問25. もっとも変化があったのはどれですか。(1つに) n = 152

1. 家族 14.5 2. 友人 9.2 3. お金 24.3 4. 勉強 5.3 5. 資格 0.0
6. 就職 15.1 7. 自立心 17.8 8. 趣味 6.6 9. その他 5.9 10. 無回答 1.3

問26. それぞれの状況は、大学生になってどう変わりましたか。(それぞれ1つに) n = 152

	とても良くなった	良くなった	変わらない	悪くなった	とても悪くなった
自由時間の量	38.8	34.9	11.8	11.8	2.6
家事の負担	2.0	9.2	43.4	28.3	17.1
住宅の住み心地	12.5	19.7	50.7	13.2	3.9
家族との関係	0.7	12.5	21.7	58.6	6.6
金銭の余裕	5.9	30.3	23.0	28.3	12.5
学校への距離	16.4	18.4	22.4	24.3	18.4
友人との関係	9.2	25.0	62.5	2.0	1.3

問27. 通学時間はどれくらいかかりますか。(1つに) n = 152

1. 30分未満 39.5 2. 30分～1時間未満 29.5 3. 1時間～2時間未満 21.7
4. 2時間～3時間未満 7.9 5. 3時間以上 1.3

問28. 通学の負担感はどうですか。(1つに) n = 152

1. かなり負担 20.4 2. やや負担 36.8 3. あまり負担ではない 28.3 4. 負担ではない 13.8
無回答 0.7

問29. 現在の生活に満足していますか。(1つに) n = 152

1. 満足している 13.8 2. やや満足している 54.6 3. やや不満 26.3 4. 不満 4.6 無回答 0.7

問30．現在の生活をさらに充実させるためには、どの事柄が最も関係しますか。(1つに) n = 152

1．人間関係 24.3	2．経済的余裕 38.2	3．時間的余裕 26.3	4．余暇余裕 3.9
5．学校 4.6	6．その他 2.0	無回答 0.7	

問31．現在の住まいの状況。(1つに) n = 152

1．一人暮らし 50.7	2．実家暮らし 44.1	問34へ	3．その他 4.6	問36へ	無回答 0.7
--------------	--------------	------	-----------	------	---------

問32．一人暮らしの理由は何ですか。(1つに) n = 78

1．一人暮らしをしたかったから 14.1	2．実家からだに大学に通えないから 83.3
3．その他 1.3	無回答 1.3

問33．イメージしていた一人暮らしと現実の一人暮らしに

差はありましたか。(1つに) n = 78

1．とてもあった 7.7	2．ややあった 42.3	3．あまりない 46.2	4．全くない 2.6	無回答 1.3
--------------	--------------	--------------	------------	---------

次は問36へ

問34．実家暮らしの理由は何ですか。(1つに) n = 67

1．実家が好きだから 22.4	2．実家からでないと大学に通えないから 43.3	3．その他 32.8
無回答 1.5		

問35．一人暮らしをしたいですか。(1つに) n = 67

1．とてもしたい 28.4	2．ややしたい 35.8	3．あまりしたくない 20.9	4．したくない 13.4
5．無回答 1.5			

問36．出身はどこですか。(1つに) n = 152

1．東京 5.3	2．神奈川 31.6	3．関東 22.4	4．その他 40.1	無回答 0.7
----------	------------	-----------	------------	---------

問37．性別。(1つに) n = 152

1．女性 66.4	2．男性 32.9	無回答 0.7
-----------	-----------	---------

問38．学年。(1つに) n = 152

1．1年 0.0	2．2年 46.7	3．3年 41.4
4．4年 11.2	5．その他 0.0	無回答 0.7

問39．学科。(1つに) n = 152

1．広報学科 90.8	2．経営情報学科 4.6	3．情報システム学科 3.9	4．国際コミュニケーション学科 0.0
5．国際関係学科 0.0	6．健康栄養学科 0.0	無回答 0.7	

以上で終わりです。有り難うございました。